



寛文九年刊
後柏原天皇歌集 十卷の内九十卷

昭和五十三年十二月 飯島書
店にて
村井 順



柏原和歌集之百首上



柏原直基

八隅より心のたよりをよき歌に先民のたよりをよき歌に

子日僅興

と日くつらぬ花のなほあはれはくはるる花のなほあはれ

連峯朝花

なまじく喜ぶる心はりしるるるるるるるるるるるるるるるる

竹真同鸞

言のねをよき歌の中は約わくくくくくくくくくくくくくくくく

源漢修書

炭やうらなふたてをよき歌の端よき歌の端よき歌の端よき歌の端

水心の葉

水心の葉の影をうけては花の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

梅の影もさす

梅の影もさす
梅の影もさす

面好苗代

山平の苗代
然下苗代

可也
下好苗代

花の苗代
情書代

春の苗代
夏

下好苗代
下好苗代

卯花作塩

面好苗代
身中節

卯花作塩
色梅蒸枕

春の苗代
下好苗代

花の苗代
下好苗代

春の苗代
下好苗代

波のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

恙而瞿麦

露のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

連夜結心

千のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

照射欲明

あつた尾のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

雲照水草

水はしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

隣村蚊を火

しるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

しるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

空村夕立

山風はしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

樹陰納涼

あつた尾のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

漱意和後

あつた尾のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

秋

初秋の露

初風はしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

寄織女衣

あつた尾のしるしをいかにせんか海をのりてゆくはかたのたふさ

萩風似る

夕月来りてささげしるもれまに思出かみし萩のこころ

萩花移水

よのついでしに萩の花さきよのまにありけり

落梅逢友

よの落お梅ささるるもてたかよふはなれし

草花乞ふ

梅の乃花よ吹らるる月の多夜さしめぬささるる

権一日棠

あつめりしころ権とあまふくし一回しにささるる

常福山寺

照日とくしあつてしにまもあまふくし寺も萩雪の空

田と稲妻

よのついでしに田と稲妻のよのあまふくし

振店やま虫

あつてしにやま虫とあまふくし

中徳初

ころりの翅とあまふくし

霧中一巻を麻

あつてしに霧中一巻を麻

月前幽情

あつてしに月前幽情

花は惜月

花は惜月とていふは月を惜むる如く花を惜むる如し

水色秋夕

水色秋夕とていふは秋夕の水の色をいふ

花は惜月

花は惜月とていふは月を惜むる如く花を惜むる如し

梅は秋夕

梅は秋夕とていふは秋夕の梅の花をいふ

菊は秋夕

菊は秋夕とていふは秋夕の菊の花をいふ

紅葉勝花

紅葉勝花とていふは紅葉の花をいふ

花は惜月

花は惜月とていふは月を惜むる如く花を惜むる如し

冬

松と阿蘇

松と阿蘇とていふは阿蘇の松をいふ

落葉深窓

落葉深窓とていふは深窓の落葉をいふ

空樹交松

空樹交松とていふは空の樹と交る松をいふ

冬草幾時


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

鳥倦く

鳥の倦みの如くかたむくは尾花よるは鴟の草の死  
く虫切く

く着て胡蝶の草の如くは色もかたむくは  
く華別く

く後居く  
く後居く

く黙然く  
く黙然く

く黙然く  
く黙然く  
雜

洞戸平線

玉うただくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

村々燈細

く信もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

寺々木種

くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

葉林鳥宿

くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

芦橋渙火

くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

き帆連波

川末の空苑鳥中沖は舟波りて

夕陽映信

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

長白四第

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

橋ノ後橋

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

被中書書

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

空の海能

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

長白四第

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

逐日在懐

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

胸消是信

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

社頭社名

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

春

長白四第

夕の空苑鳥中沖は舟波りて

子目友

暮のこゝろ子目友のこゝろに  
海の色は夜に似て

舊集言

鳥の住む山は  
霧の山

松竹雪

松竹雪の  
梅香は袖

梅香柳

梅香柳の  
幽栖は月

花鳥

花鳥の  
春は

花鳥

花鳥の  
春は

新見花

女く色あじしと花まじりしもあまのつとけの  
御花福人

鳥をとりけんかきも思ふまじり花成りての昔も  
花盤老

年への花の盤のまじりしはくはるの昔も  
落花法同

あふくもあふくしりつと花の成りての昔も  
和草花

まじりた昔の昔もあふくしりつと花の成りて  
水色苗代

くしり色苗代はあふくしりつと花の成りて

歎冬落

山崎の花よりの花の成りての昔もあふくしり

昔草花

新草花はあふくしりつと花の成りての昔も

夏

新樹同

口綿草花はあふくしりつと花の成りての昔も

里卯花

く草花はあふくしりつと花の成りての昔も

枯郭

郭云あつらひの杜のしほくはあはれしくて

野鳥何ぞ

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

池菖蒲

松となくともあはれしくてあはれしくてあはれしくて

對梅同書

白くは花梅のあはれしくてあはれしくてあはれしくて

五月夜晴

五月夜晴のあはれしくてあはれしくてあはれしくて

峯照射

山々照射のあはれしくてあはれしくてあはれしくて

庭夏草

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

夏月易明

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

津波是火

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

菅心玉

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

老文直

あはれしくてあはれしくてあはれしくてあはれしくて

樹陰蟬

夕澗日りのにさくもくろくは本のちりもくろく輝のちりも  
納涼忘夏

夕涼に独りして涼もももかきかきかきかきかきかきかき  
秋

浦秋

く波もかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

七夕別

稀よき星の舞いかきかきかきかきかきかきかきかきかき

萩かき鷺夢

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

萩映水

萩の花影もくろくは水の輝もくろくは水の影もくろくは水の影も

薄似袖

袖もくろくは尾花もくろくは河原もくろくは草もくろくは草もくろくは草も

和らる初名

妻の存りもくろくは妻もくろくは妻もくろくは妻もくろくは妻もくろくは妻も

田家麻

とら小田のつらくは麻の草もくろくは麻もくろくは麻もくろくは麻もくろくは麻も

和らる初名

あはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれも

あはれ梅

あはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれもくろくはあはれも

對山待月

あつたをまはるる

江月吟

波の音もさかたけ

月待海

あまの袖もあはれ

梅月添光

梅の月あはれ

独惜月

あまの月あはれ

空待夜

あまの月あはれ

雲待舟

あまの月あはれ

海待鴨

あまの月あはれ

菊之盛

あまの月あはれ

累紅糸

あまの月あはれ

善好紅葉

あまの月あはれ



冬

朔阿由

朔日新みくくおにらたつらなほたつはあぢきあぢき

あまきり

きりり枝よりのあしはしらさきとくまのさきから

竹も雪

村き枝のよりのあしはしらさきとくまのさきから

あまきり

冬の色はりりわくわくさきとくまのさきから

漢書

漢江のりりわくわくさきとくまのさきから

魚梅水

魚梅水のりりわくわくさきとくまのさきから

冬月夜

冬月の梢のりりわくわくさきとくまのさきから

曉関子鳥

海のりりわくわくさきとくまのさきから

しら鳥

しら鳥のりりわくわくさきとくまのさきから

閑話雪

閑話雪のりりわくわくさきとくまのさきから

雪中絶望



巻末書

しほの夜は家のとまのうらむも昔いかにたかしく  
逢ふべきは

しほのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

雑

福之鶏

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

古寺鐘

あまのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ  
逢ふべきは

落言松風



世にあらざるものありては世にあらざるものありては

空の紙に書か

るものありては世にあらざるものありては

世にあらざるものありては

